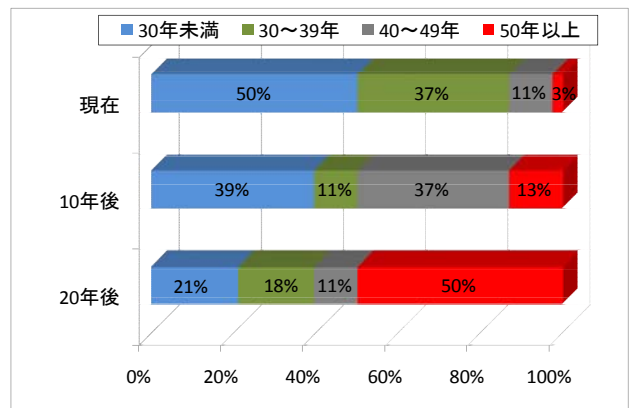
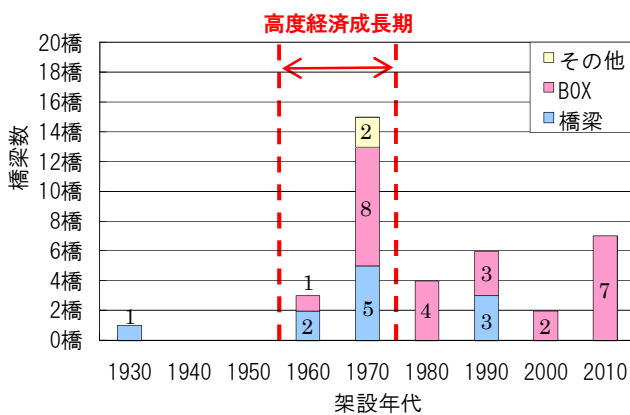


# 川北町橋梁長寿命化修繕計画

## 1. 長寿命化修繕計画の背景と目的

- 川北町が管理する道路橋は38橋あり、このうち建設後50年を経過する高齢化橋梁は、全体の約3%を占めています。
- 20年後には高齢化橋梁が急増し、その割合は50%まで増加します。
- 高度経済成長期に大量に建設され、今後、高齢化の進む橋梁の安全を確保し、代替路を含めたネットワーク全体のサービス水準を維持します。
- これまでの事後保全的な対応から計画的かつ予防的な対応に転換することで、長寿命化によるコスト削減を図り、将来の大きな財政的負担を緩和・平準化し、道路交通の安全性を確保します。



## 2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

管理橋梁全38橋の内、“橋梁”と“橋長5m以上のBOX”及び“平成22年度に橋梁からBOXへ架替えた橋(2-2号橋 19-1号橋 20-1号橋)”の17橋を長寿命化修繕計画の対象とします。

	対象橋梁数	全管理橋梁数				
		全橋	① 橋梁	BOX		④ その他
				② L≥15m	③ L<5m	
長寿命化計画	17橋	38橋	11橋	3橋	22橋	2橋

※ 計画対象橋梁は、(①) + (②) + (③の内、平成22年度に架け替えを行った橋梁)

### 3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

#### (1) 定期点検の実施と日常の維持管理の徹底

橋梁の健全度は、架設年度や立地条件等を十分考慮し、定期的に橋梁点検を実施し、橋梁の損傷を早期に把握します。

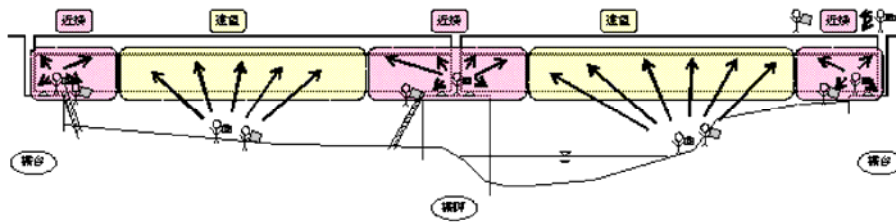
#### (2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的なパトロール、清掃などを実施します。

#### ○橋梁点検

適用要領：「道路橋に関する基礎データ収集要領（案）（国土交通省 平成 19 年 5 月）」を基本に実施します。

点検方法：目視を基本とし、可能な限り近接目視を行います。



現地における調査例

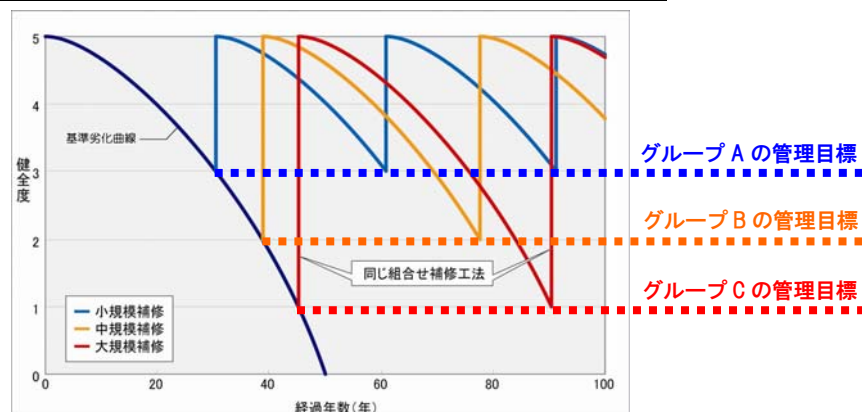
### 4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替え費用の縮減に関する基本的な方針

- 橋梁に影響のある損傷が発見された後に、補修を行う事後保全型の管理から、橋梁に影響のある損傷を発生させないように、前もって補修を行う予防保全型の管理へと転換することにより、将来的な維持管理費（ライフサイクルコスト）の縮減と維持・更新費の平準化を図ります。
- 川北町では、路線の重要度・架橋条件（桁下の利用状況など）・橋長などに応じた分類（グループピング）を行い、グループの重要度に応じた管理目標を定め、橋梁健全度が管理目標を下回らないように、計画的に補修を行います。

橋の健全性を示す指標として、健全度を 1～5 の 5 段階に区分し、橋梁毎に管理目標を設定します。

表 健全度の定義

健全度		損傷状況 及び 対応
良 ↑ ↓ 悪	5	劣化損傷が認められない
	4	些細な劣化損傷のみで、点検記録を継続する
	3	軽度の劣化損傷があり、計画的に維持管理補修する
	2	重度の劣化損傷があり、早急な補修対策が必要
	1	甚大な損傷で安全確保に支障をきたす（通行止め）



## 5. 長寿命化修繕計画策定による効果

修繕及び架替えに要する費用については、今後50年間で7,100万円から4,300万円と約39%に相当する2,800万円の縮減が見込まれる。

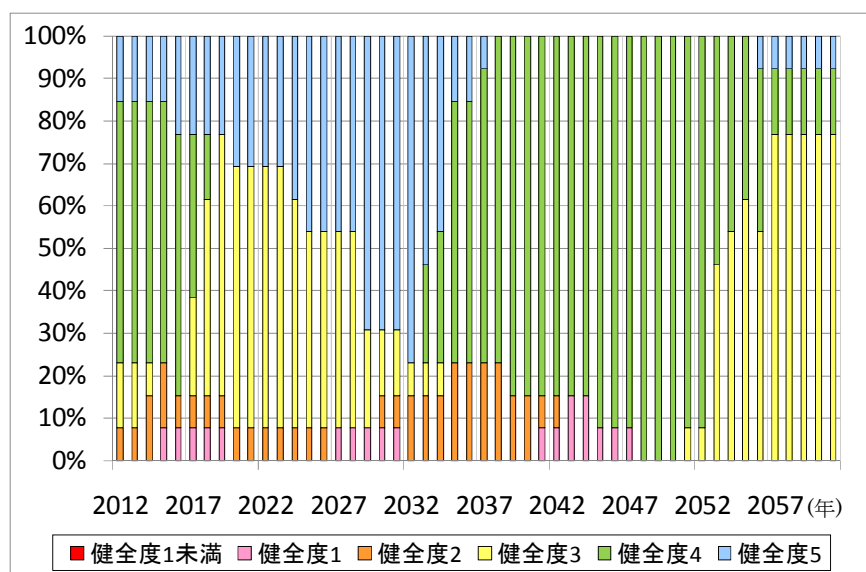
維持管理シナリオ	更新及び修繕費
事後保全を行った場合	7,100万円
予防保全を行った場合	4,300万円



2,800万円の  
コスト削減効果

～事後保全、予防保全における健全度の推移～

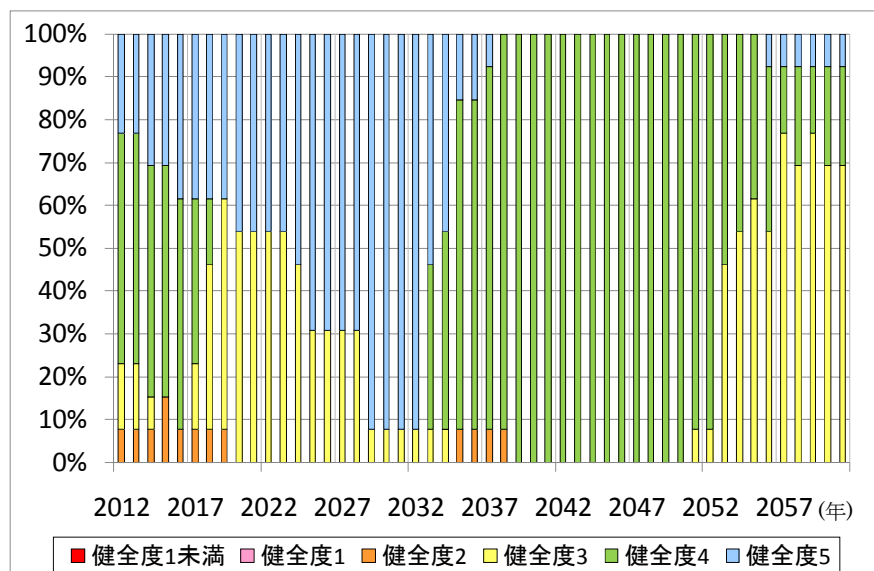
【事後保全型管理における健全度の推移】



凡例



【予防保全型管理における健全度の推移】



予防保全型管理を進めることで

- ① ライフサイクルコストの削減ができる
- ② 高い橋梁健全度が維持できる